

第2回臨時幹事会

日時 2021年8月5日 20:00～

場所 zoom

1. 学連登録の取り消し
2. ICSLについて
3. 関東学連規約改正

1. 学連登録の取り消し

【金澤】 特定の大学から要望があった。昨年度新生として登録し、今年度も継続して2年生として登録しているが、昨年度には活動できていない。にもかかわらずFクラスに出られないのは不利。そのため昨年度の登録を取り消したい。といった旨。

そもそも昨年度の新生についてはICMRの中止に伴い、学連の行事に一度も参加していない新生の登録取り消しの制度を設けていた。幹事会で決定し総会で周知しており、実際に登録取り消しも行われている。この措置自体は昨年度の時点で終了しており、その後上述の意見が出た。締め切りを過ぎているため断ることもできるが、今回は前回と目的が異なる。またある程度合理性が認められると判断したため議題として挙げさせてもらった。参考として昨年度の新加盟員については人数が少ない。また年間を通じて登録申請があった。

対応としては3つ考えられそれぞれ是非がある。①昨年度の取り消しを認める、②インカレにおいて2年目でも昨年度の活動が無い場合特例としてFクラスへの出走を認める、③救済措置は行わない。

議論としてはまず救済措置をとるかどうか、とる場合にはどのような措置をとるのかの2点。

【若月】 申請をした学生は、Fクラスでないコースを走ることによる不安があるということか。

【金澤】 実際の競技レベルについては分からないが、活動状況は新生と大差なく、Fクラス以外への出走には不安があるというように感じられた。

【若月】 措置について別案がある人などあればどうぞ。

【永山】 新しい案として。概要に競技的に不利・不安とあるが、競技的に不利という面而言えば今の3年生はICMRでFクラスを走れていない状況なので、これについて特例を認めるのはよくないだろう。不安という点に関してはFクラスのチャレンジクラスを設けることで運営負担を抑えつつ要望に応えることができるのではないだろうか。

【若月】 ②の選択肢の派生として、オープンクラスを設けることで解決するということか。

【永山】 はい。活動状況に応じてというよりは、希望する人全員がオープンクラスに出走

できるようにするのがいいと考えた。

【金澤】 確認だが、昨年度インカレでFクラスに出走した人は除いた方がいいだろうか。

【若月】 自分個人としては不安があるからレベルを下げたクラスに出走したいという人に関しては、そのための条件を別で設ける必要は無いのではないかと思うがどうか。

【永山】 私も、極端な話3年目であっても不安があるなら出走できてもいいのではないかと思う。

【金澤】 この案であれば実行委員会の負担という面以外については特に気になる点はない。

【浴本】 永山の意見と近いが、オープンクラスではなく新2年生を対象とした正規クラスを新設するのはどうだろうか。その場合は表彰を行うことができる。

【永山】 それもいいと思うので、実行委員会にそれが可能かどうか確認をする必要はあるだろう。自分の提案でチャレンジクラスとしたのも、実行委員会の負担を抑えるためであるため。

【若月】 実行委員会的にどこまで可能かというのも問題になるだろう。

【松本】 その案だと選手権クラス、一般クラス、不安な人のためのクラスの3つに分かれるということか？

【浴本】 自分の考えでは一般クラスのつもりだ。

【松本】 底の線引きが難しそうだ。優勝したいからそのクラスにするというのはどうなのか。インカレだけ出るような人もいるが、そういった人は昨年Fクラスを走っていないことがどれほど影響を与えるのか。競技力が不安な人のためにクラスを作るのと優勝を狙うというのは少し違うのではないか。

【若月】 不安がある人のために作ったクラスに、優勝を狙った人が入ってくることを防げない。その場合その成績を認めるのはどうなのか、ということか？

【松本】 その通りです。

【若月】 オープンクラスの場合参加の条件を細かく決める必要は無いが、正規表彰クラスとする場合は条件を厳格に決める必要があるが浴本君どうか。

【浴本】 勘違いしていた部分があって、インカレはBクラスのような自信のない旧人用のクラスは設けられていないのですね。Bがあるとってそれと同じ趣旨でやればいいと思っていた。

【谷野】 規則とEAの観点から。実施規則上は併設クラスに関する細かな規則は定められていない。選手権クラスの順位のみが公式記録となっている。したがってBクラスを設けることは規則上可能。もう一つの観点として、下位クラスに出場して優勝を狙うという戦術が可能になるということについて。オリエンテーリングでは能力に応じて適切なクラス選択を行うというものがある。したがって大会の趣旨に依るが、適切なクラスに出場できるように幅を広げることは一つの手であると言える。上述のような戦術が取られるかは競技者にゆだねるしかない。ただし運営の負担は大きくなるだろう。

【若月】 チャレンジクラスを作るのは実行委員会としてはどうなのか？

【谷野】 負担は小さい。学連登録の取り消しということだが、登録年数を延ばしたいのかインカレ出場に関してのみなのかによって話が変わるだろう。インカレに関してであれば学連登録を取り消すよりはインカレの規則を変えるほうが妥当ではないか。

【金澤】 その点について補足。今回申請があった取り消し理由はインカレについてのみだった。

【若月】 学連登録を取り消すまでの救済はしなくてもいいのではないかと、インカレ側で工夫して救済するのがいいというのが総意ということではないか。

【衣笠】 確認になるが、昨年度の学連登録取り消しについてはミドルセレ出走者も対象となったが、ミドルセレ出走者の今回のインカレでの扱いはどうなっているのか。

【若月】 取り消した選手については1年目の選手として扱うこととなっていると思うが。

【金澤】 事務局としては取り消した選手は控えているが、新入生として登録していて、新入生として扱われるだろう。

【衣笠】 学連の運営上問題ないのであれば、取り消せるなら取り消してもいいんじゃないか。

【永山】 これまで取り消しというのは無くて、去年はコロナの影響で特例としてこのような措置を行ったのではないかと。

【谷野】 なぜそのようなことがされたのかについて。1年生が夏まで入らないことが全国的に起きていた。ICMRに出場できるのであれば学連登録をする意義もあるが、それが無くなったため特例として救済措置の取り消しを認めた。

【永山】 昨年については特例的にやったもの。衣笠の言うように特例を適用しすぎるのは好ましくないのではないかと。

【衣笠】 登録取り消し特有の懸念点が多くあるのであればインカレの方のみを変えるのがいいのではないかと。

【若月】 案は出尽くした感じがするが他に案がある人はいるか？

【若月】 いなければ今の時点で出ている措置案から決定することになるが。

【金澤】 個人的に救済措置を取らないほうがいいという考えの人がいれば意見を聞きたい。

【谷川】 特に救済措置をとる必要はないと考えている。インカレでBクラスが無いということだが、インカレにBクラスを設ければいいのではないだろうか。他の大会と同様にBクラスを設けて競技に自信が無い人はそこに出走するのが良いだろう。競技に自信が無いのに表彰されたいというのは都合のいい話であって、表彰されたいのであればそれだけの実力をつけて参加すればいいだろう。

【若月】 今回の件に対する救済というよりは今後のインカレについてということか。

【谷川】 古い話になるがBクラスは自分が出走したころにはあって、出走している人も

いたと思う。コロナウイルスとは関係なく、Aクラスに出ることが難しい人のためのクラスはあったほうが良いのではないだろうか。

【衣笠】 今回のインカレロングでは中級者向けのクラスとしてSがあると思うが。

【谷野】 その通りでした。Bだと思っていたがSがあります。

【若月】 Sクラスがないという認識で話を進めていたので、浴本君や永山君の意見がそこで変わるようであれば補則をお願いしたい。

【浴本】 Sクラスの趣旨は自信のない旧人のためだと思う。今回はコロナの影響でオリエンテーリングがしたくてもできなかった2年生もいるだろうから例年とは少し状況が違う。そこでFクラス以外に自信のない2年生のためのクラスがあってもいいと思う。

【永山】 私もその意見に近い。SクラスはFクラスよりも難易度が高いだろうから特例的にFを走れるようにするのがいいかと思う。

【若月】 Sがあるから救済措置は必要ない、Sよりも難易度を落とした表彰対象となるクラスを新設する、Fクラス相当のチャレンジクラスを設ける、学連登録の取り消しを認める、の4つの案から決を取るということでもいいか？

【谷野】 票決を取るのもいいが、実行委員会に確認を取って各案が可能かどうかを確認するのを優先するべき。

【金澤】 確認だが、採決を行うのは実行委員会と確認を行った後ということでもいいか？

【若月】 はい。この議題については実行委員会に確認の後投票を行う。

2. ICSL2021 の開催基準について

【若月】 今回決めたいこととして、開催基準の策定、短日開催となった場合どちらの日程をずらすのかの2点。

昨年もICMRで開催可否の基準が決定された。今年はスプリントとロングの2種目がある点が異なる。この場合両方満たした場合に開催する、片方満たされたら両方開催する、満たされたものだけ開催するなどが考えられる。開催可否の基準を上回った場合の開催形態についてもどのように判断するかが問題となる。判断をまとめたフローチャートを作成した(資料参照)。

単日で複数週行う場合どちらを動かすのかという問題もある。運営の都合上決まっている場合はもちろんそれに従うが、そうでない場合にどうするかも決めなければならない。これについての案も出しているが、これについてはいずれの場合も差が無いので好みの問題となるだろう。

何か質問等はあるか？

【浴本】 A-1の事前調査で見込み参加者数を調べて判断するという部分が良くわからなかったので説明してほしい。

【若月】 昨年も宿泊の有無で参加の可否が異なることがあって事前の調査があった。単日開催となった場合、参加できても行かない可能性が考えられる。それぞれの開催形態で規制

状況も含め参加意思のある人がどの程度いるのかを調査し、その結果から判断することを考えている。

【浴本】 わかりました。

【山川】 ハードルとなるのは大学による活動制限と会場の許可の 2 点となるだろう。会場については両方可能か両方不可能かの 2 択、両方不可能となった場合は交渉次第では選手権のみに絞るなどして開催できる可能性はある。

【若月】 今回の提案も、現実的に不可能であるものは除いた。選択肢が狭められていない状況を想定して行っている。

今は自分で考えた基準や判断の方法を示しているが、別の方法や判断手順がある人は言ってほしい。

【金澤】 開催可否について今は人数でまとめているが、去年は大学数でまとめていたような気がするがどうか。

【若月】 去年のそれについてはミドルリレーとして開催するかリレーとして開催するかについて。リレーに参加できる大学数を基準に開催判断しようという話。ミドルの方では選手権に参加できる人数を基準にしていた。

【若月】 対案が無いようであれば私が挙げた案から決定したい。一旦皆さんの意見を聞きたいので手を挙げてもらいたい。

【若月】 どちらも手が上がったので考えを聞きたい。はじめに両方で基準を満たす場合と答えた人。

【高木】 どちらかとした場合、スプリントとロングで参加者数に差が出るのが考えられ、その場合は会計状況に心配がある。実施するのであれば両方とも一定の参加者を得られるほうがいいのではないかな。

【若月】 片方が満たしていないにもかかわらず両方開催した場合、満たさない方の会計状況が心配されるため厳しい基準を設けたほうがいいのではないかとということか？

【高木】 はい。

【若月】 逆にいずれかで満たす場合と答えた人。

【金澤】 個人的な想像にはなるが、スプリントとロングとで条件にそれほど差が出ないと考えている。片方満たしてもう片方は満たさない場合は僅差になるだろう。ほぼ差が出ないという前提の上の話にはなるが、片方が満たすような状況であれば両方開催しても問題ないだろう。

【浴本】 インカレは 4 年間で 8 回という限られたものなので、可能な限り開催したほうがいいのではないだろうかと思い「いずれかで」という方にした。

【若月】 補足として。去年に 4 分の 3 という数字にしたのは、会計上の問題もあるが、選手権としての質が担保されるかどうかという面もある。

【衣笠】 開催というのは、選手権クラスの開催を意味するのか？

【若月】 従来の形式での開催である。

【衣笠】 選手権クラスの質という点であれば、ロングで満たすもののスプリントで満たさない場合に選手権として認めてしまうのはいいのだろうかと思う。

【若月】 B1 案の懸念点としてはその点が言えるだろう。逆に B2 の懸念点としては僅かな差で開催ができなくなり「本当は開催できたのではないか」という状況が発生しかねないことがある。

【若月】 一旦開催形態の判断についての話に移りたい。どちらでも開催可能でありかつ開催可否の基準をいずれの種目も上回っていることを前提とする。その上でどちらの種目を取るかという話をしていく。

1 つめとしてはより参加者が集まる形態をとる。2 つめは二日間開催とする。

また意見を聞きたい。はじめに A2 の 2 日間開催の方について。

【浴本】 遠方の参加者は短日開催だと参加が難しいだろうから。

【若月】 懸念点はそこになると思います。A1 の方で意見がある人がいれば。

【永山】 2 日間開催でいいとは思いますが、事前調査によりという点を鑑みて A1 にした。例えば 3/4 を満たしかつ 1/4 の大学の多くが遠方の場合。特にその遠方の大学の人たちが単日ならば参加できる場合。たしかに遠方の人 が 2 回来るのは難しいと思うのでそれも事前調査で聞いた上で決定すればいい。

【若月】 2 日間開催をするにしても単日開催 2 回にするにしてもいずれも参加が増える要素・減る要素があり、それらすべてを含めて事前調査で数字を出して検討するのがいいのではないかということでもいいか。

【永山】 はい。昨年のスプリントへの関西からの参加者が少なかったことを踏まえての意見でした。

【山川】 スプリントの渉外は特別で、今年に関してはセットで渉外していて代替の開催地は担保できない。矢板という特別な場所であるため会場が取れている。現場の人は理解してくれていても市長の一言でできなくなる場合も。8 月中はまさにそうで、それが 9 月 10 月も延長された場合はそもそも開催できないということをお知らせしている。つまり現状としては 2 日間開催されるか 2 日間ともできないかの 2 択となっている。そのことを理解してほしい。

【若月】 開催形態としては 2 日間セットで開催するしかないとして、その上で開催判断の基準をどうするかという方向で議論を進めていく。

【永山】 今の話で単日開催 2 日間が不可能なのは分かったが、大学数の問題で 1 日のみ開催が可能となった場合にスプリントかロングのどちらかのみを行うという可能性はまだあるのか？

【若月】 2 日間開催が確定するとどちらにも出場できなくなる選手が生じる可能性があるという話か？

【永山】 開催可否基準とは少し異なる話だが、宿泊が認められない大学が一定数いる場合、いずれかの種目一日のみという選択肢もあると思うがそれはどうなのか。2日間でできないからスプリントロングは中止とするのは、2回ミドルリレーを中止にしていることでもあるので、できるのであれば1日だけでも開催したほうがいいだろう。

【山川】 B-2の場合片方だけしか満たさずもう片方をキャンセルした場合、その代替はできないほど金銭的にも日程的にも役員のリソース的にも難しいだろう。いずれの基準を満たすものの会場の使用を断られた場合には、スプリントは諦めるしかないがロングについては会場を使わない形で選手権クラスのみ開催することは可能である。そこまでしてインカレを続けるかおよびお金の使い方については学生に決定権がある。またスポーツ庁は昨年よりも色々な補償制度を作っているので、それを勉強して会計的なダメージを補って開催する可能性もある。

【山川】 昨年秋の議論よりも今の議論の方が厳しい状況にあることは認識しておいた方がいい。今年の秋インカレの開催はかなり怪しいというところで議論しなければならない。

【若月】 以上の話を踏まえて幹事会としては、B1を基本方針として承認を取るかとなるだろうがいかがでしょうか。

【山川】 それが賢明だろう。

【若月】 ではそういった方針で実行委員会と確認を行った上で幹事会内で決を取る。開催可否の基準についての議論は以上とする。

3. 関東学連規約改正について

【若月】 日本学連の規約の内容と地区学連の規約の内容にずれがあるため、それを解消したいという話である。各地区学連間でもずれがあるという指摘がされている。

【坂巻】 関学と日学とで加盟員の人数に齟齬がある。加盟の際の人数が日学では5名、関学では3名となっている。そのため構成員が3名以上5名以下の場合関学の議決には参加できるが日学の議決には参加できない状況になっている。それを改正するという話で、草案はまだできあがっていないので次回以降になると思う。

【若月】 他の地区学連の規約も確認しながら齟齬が生まれないように改善していければ。

連絡

【山川】 地図売り上げの精算については後日まとめる。地図事業について東工大の方から報告書ももらっており、あとは学連への請求書を併せて出すのみ。地図売り上げの方もこれからの新規事業の方も止まっているので、次の幹事会で扱っていただきたい。

【若月】 他に無いようなので本日の臨時幹事会は以上とする。